

【中学校国語】

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

□「話すこと・聞くこと」
・全国平均に比べ、上回っている。

□「書くこと」
・全国平均に比べ、上回っている。

□「読むこと」
・全国平均に比べ、上回っている。

□「我が国の言語文化」
・全国平均に比べ、上回っている。

●話し合いの発言について説明したものとして適切なものを選ぶこと。

●短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択したり、情景の時間帯の違いを捉え並べ替えたりすること。

●各領域において正答率は高く、本校の課題探究的な学習を今後も継続して進めていく。

○情報と情報との関係の理解と思考の整理を促す学習機会を増やす。

○表現の技法についての理解と、短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。

○中等教育学校の特色を活かし、6年間の連続的な学びを行っている現行の取組を継続し、さらに発展させていく。

IBを活用した課題探究的な学習の効果

・課題探究的な手法をとおして、文脈に即して適切な語句や手法を用いることができる。具体と抽象の往還や部分と全体の捉え等の理解において、日常からATLスキルを用いて思考することに定着が見られる。

・記述式問題に対する無解答が極めて少なかった。国語科に限らず、各教科において記述することに抵抗なく取り組んでいることがわかる。

【中学校数学】

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

□「数と式」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「図形」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「関数」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「データの活用」

・全国平均に比べ、上回っている。

●車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ。

●三角形の合同を基にして証明すること。

●各区分及び領域において正答率は高く、本校の課題探究的な学習を今後も継続的に進めていく。

○複数の集団のデータの分布を整理して判断し、四分位範囲を比較することができるような学習場面、学習形態の工夫を図る。

○数学的に解釈をして筋道を立てて考え、証明する学習機会を増やす。

○中等教育学校の特色を活かし、6年間の連続的な学びを行っている現行の取組を継続し、さらに発展させていく。

IBを活用した課題探究的な学習の効果

・IBの学習サイクル「探究－行動－振り返り」の授業実践をとおして、数学の効果的な知識の活用や応用につながっている。

・学習のアプローチ(ATL)の一つである批判的思考スキルの育成が数学的なものの見方を発展させている。